

1年2組

## 朝顔さんとのくらし

### ～夜に 冬に いのちをつなげていきたいな～



## 夜に朝顔を光らせて咲かせたいな

夏休み明け、森のように生い茂った「朝顔トンネル」の中で、カエルや虫を探す子、トンネルの中で暑さを凌ぐ子、いろんな種類の朝顔を観察する子など、大きく成長した朝顔とのくらしを楽しんでいました。また、こすり染めをしたり、濃い色水を使って折り染めをしたりして、朝顔さんとのくらしを楽しみました。9月上旬、子どもたちとこれまでの活動の振り返り、今後の展望について語り合いました。その際に「夜に朝顔を光らせて咲かせたいな」という願いが生まれました。そこで、早速、朝顔灯籠づくりを進めてきました。灯籠の模様を描く時「わたしは、朝顔のつるを描いて、リアルにしたいな」と願いをもって描き始めるAさん。「ぼくは、朝顔をいっぱい描くぞ」と意気込み、朝顔をたくさん描いたBさん。一人一人が、朝顔への思いを灯籠に込めました。教育実習生の先生方の力を借りて、自分のお気に入りのこすり染めの和紙を貼り付け、灯籠づくりを行いました。朝顔灯籠が完成すると、子どもたちは、早く光らせたい気持ちでいっぱいです。「先生、いますぐに暗いところにいって光らせてみよう」という子どもたちの願いから、学習センターを暗くして、みんなで光らせてみました。「すごい、朝顔が浮き出ているみたいだよ」「きれい、夜もっと暗い所だとどうなるのか楽しみだな」と期待感が溢れていきました。お月見会、当日、36人が作った朝顔灯籠は、夜にどのように咲くのか、ドキドキの子どもたち。カウントダウンとともに、朝顔トンネルの周りで灯籠を光らせました。「すごい、きれいだねえ」と夜に光る朝顔灯籠を見つめる多くの子どもたち。そんな中、Cさんは、暗闇に光る朝顔を見つめながら、「朝顔さんの命、ずっと生き続けているみたいだね」と笑顔で語りました。朝顔を切り、こすり染めを行う場面から「少し、かわいそう」と、ためらう様子があったCさん。朝顔を大切な命として捉えている姿から朝顔とのかかわりの深さを感じました。



## 朝顔さん、今何歳くらいなのかな？ そして新たな天敵出現・・・

9月下旬、森のように生い茂った「朝顔トンネル」の中で、子どもたちが夢中になっているのが、朝顔の種を探ることです。Dさんが「みんな、種がパンクしているよ、種がたくさん落ちているよ」と知らせました。子どもたちでは「まだこの種は採っちゃだめだよ、赤ちゃんになりきっていないよ」「たまねぎみたいになつたら採るといいよ」と伝え合いながら種を取っていました。花が枯れ、種となり、だんだん色が茶色になる様子を見つめているからこそその気づきだと思います。子どもたちがつぶやきながら種を探っている声を聴いてみました。

Dさん:「みんな、こういうやつは、もう採ったほうがいいよ」  
Eさん:「すごい、ここ採り頃だよ！」  
Dさん:「この種、もうおじいちゃんになっているよ」  
Eさん:「ああ、おじいちゃんかあ。長生きしたねえ」  
Dさん:「先生より歳取っているよ」  
Fさん:「朝顔さん、今何歳くらいなのかな」  
Gさん:「35歳！」  
Fさん:「まだ、若いか。だけど、だんだん弱っているの、やだな」



ここでの子どもたちのやり取りを見ていくと、大量の種の出現に興味を持ち始めるのと同時に、だんだん元気がなくなっている朝顔さんを目の当たりにしてどこまで生き続けるのか気になり始めているようでした。まだ、「35歳」という希望とともに、まだまだ朝顔と暮らしていきたいなという子どもの思いに、朝顔さんと共に在ろうとする子どもたちの姿が見られました。また、休み時間に、「みんな、朝顔ランドに芋虫やアオムシがたくさんいるよー」と大慌てで叫ぶHさん。朝顔や葉っぱに芋虫やアオムシが張り付いていました。「アオムシ、葉っぱ食べちゃうよ、国語『やくそく』でやったじゃん」「天敵だから、昆虫館(2組の生き物ハウス)で飼おう」と天敵除去作業に取り組んでいます。特に、朝顔を食い尽くしている正体は、「エビガラスズメ」という芋虫であることがわかりました。茶色で尚且つ大きい、これまでで最強の天敵が現れました。「なんとかしないと」と、駆除作業に取り組む日々でした。教師に頼らず、自分たちで行動する子どもの姿はとても嬉しいです。種の出現と共に、朝顔さんが人間と同じように歳をとっていることを実感している子どもたち。天敵駆除作業と一緒に「今、どうすれば朝顔さんが長生きできるのか」と本気の追究が始まりました。朝顔トンネルやわたしの朝顔を見つめている中で、「必死に生きようとしている朝顔」の生命力の強さを目の当たりにしました。



## 冬にも朝顔さんに会いたいな

種が採れる中で、「種を植えたいな」「冬にも朝顔さんを咲かせたいな」と思いを語った子どもたち。一方で、「冬に朝顔さんを植えるのはちょっと違う気がする」「春のほうが育つから、それまで待って植えたほうがいいよ」という意見も出てきました。今後どうしていくか、もう一度子どもたちと話し合いました。

Aさん:「冬でも咲かせたい、冬の朝顔に会いたいな」  
 Bさん:「けど、冬は寒いからかれてしまうよ」  
 Cさん:「あさがおさんは、寒さに弱いんだよ、かわいそうじゃん」  
 Dさん:「でも部屋の中をあたたかくして育ててみたいよ」  
 Eさん:「実験してみたいよね」  
 Fさん:「大切な命だから、ちゃんとやんないとだめだよ」  
 Gさん:「わたしは、やってみたい気持ちを大事にしたいな」  
 Dさん:「挑戦!」  
 Gさん:「だからもっと、お世話をんばって、絶対に咲かせようよ」



話し合いは、少し難航しました。植えない方がいいと思う子たちからは、朝顔さんの命の大切さ、無駄にできない強い思いを感じました。ただ、Gさんの「やってみたい気持ちを大事にしたい」という発言から一転し、お世話をもっと頑張ってみんなで咲かせたいという意見でまとまりました。お部屋の日が当たるところに、朝顔さんを植えた鉢を置き、水やりや観察をしていきました。すると、数日後に芽が出てきました。Hさんは「この感覚懐かしいなあ」と笑顔で喜んでいました。Iさんは、朝顔さんとの暮らしを振り返る作文で、しっかりお世話ができなかったことについての反省を綴っていました。その中で今回のIさんの眼は違います。毎日、朝顔の成長を確認し、水やりをしています。また、「種から生えてくる白いものは、こんな感じに長くなって根っこになるんだって」と本に書いてあることと実物を重ね合わせ、確かめながら語っていました。これは、生活科で大切にされている気づきの質が高まっている姿といえるのではないでしょうか。今までの子どもたちは、朝顔について直感的に語る姿が多かったのですが、今では、経験を踏まえ、本やインターネットを活用して語る姿があります。それと同時に朝顔について、無知であったことに気がついた子どもたち。冬に咲かせるためにも、まず今一度朝顔のことについて学び直しながら向き合い、朝顔博士になっています。早速、Jさんが「ビニールハウスを作ろうよ、朝顔さんが寒くないように」と提案しました。



朝顔を見つめながら、命のつながりと同時に、命の大切さを感じ、思いをもって考え動き出そうとする子どもたちと共に、朝顔さんとの1日1日を大切に過ごしていきたいと思います。